

第2学年 教科(音楽) 単元名「○○で校歌を演奏したら」

●単元(題材)の目標

- (1)音素材の特徴及び音の重なり方の特徴について表したいイメージと関連させて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身につける。
- (2)リズム、音の重なり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わり方について考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3)リズム、音の重なり方の違いによって生み出されるイメージの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

●指導計画(全6時間扱い)

【第1～2時】

- 教師の見本を見て、本題材の学習の見通しをもつ。
- ICT端末を使用し、音符入力や楽器選択練習を行う。
- 班で短い曲にリズムを創作し操作に慣れる。

＜指導の個別化＞

【第3～4時】

- 班の中で、担当楽器を決め、状況がイメージできる校歌を班で創作する。
- イメージに沿った校歌にするためにどのように表現すれば良いか、班で話し合いながら創作する。

＜協働的な学び＞

【第5～6時】

- 創作した曲を班で聴き、アドバイスを元に、作品を改善し完成させる。工夫したことや使用楽器を紹介するスライドを作成する。
- 創作を発表し合い、それぞれの良さについて感じ取る。
- 本題材を通して、学んだことや感じたことについて振り返る。

＜学習の個性化＞

●単元(題材)における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び

＜指導の個別化＞

音素材の特徴及び音の重なり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて理解するために教師の見本や既存曲、体験的な活動を通し、理解を深める。

＜学習の個性化＞

リズムやテクスチャの違いによって生み出されるイメージの変化により、自分の興味・関心に応じた音楽に対する感性を豊かにする。

協働的な学び

＜協働的な学び＞

班で役割分担をしながら、1つの作品を創作する活動の中で、他者の意見や知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように音楽をつくるかについて、よりより思いや意図を持つようにする。

●個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・楽譜創作機能 ・スライド ・インターネット検索

ICT端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」指導略案

音楽科

指導者 下川 昌子

クラス 2年3組

1. 題材名 「イメージに沿った校歌を創作しよう」

2. 授業のねらい

- ・創作アプリを活用しながら、他の楽器のリズムとの調和を考え、リズムを創作する。
- ・意見交流を通して自分が創作したリズムを改善し、イメージに沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。

3. 指導過程

- ・自分たちのイメージに沿った校歌にするために、どのように表現すれば良いか班で意見交換をしながら、曲を完成させる。
- ・創作活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組ませる。

学習活動	指導上の工夫・留意点	学習活動の観点 (個別化・個性化・協働)
【導入】 ・他クラスの作品を鑑賞し、良い点や改善点などを発表する。	・他クラスの作品を鑑賞し、良い点や改善点を参考にさせる。	
【展開】 ・「Flat for education」を使用し、「江戸時代 で校歌を演奏したら」や「氷の世界で校歌を演奏したら」など、イメージに沿った校歌を 班で創作する。 ・班で創作した曲を聴き、気付いたことをワークシートに記入する。記入したことを、班で 意見交換し修正する。 ・使用した楽器や工夫した点などを班で分担し、スライドを作成する。	・創作した校歌を班で聴き、意見交換をしながら、修正・完成させる。 ・スライド作成例を参考にし、班で分担し、創作した曲についてまとめさせる。	【個性】 ・状況がイメージできるような楽器(音色)を選択し、リズムを創作させる。 【協働】 ・班で意見交換をしながら曲を完成させる。
【まとめ】 ・次回の授業で行う発表の練習をする。	・本時の学習を振り返り、イメージした校歌が創作できたか、工夫した点などがスライドにまとめてあるかなど確認し調整させる。	

※どの場面で、どのアプリケーションを利用するのかが分かるように記述してください。

4. 参考資料(使うアプリケーションや画面等)等

- ・「Flat for education」(楽譜創作アプリ)
- ・Googleスライド ・インターネット検索